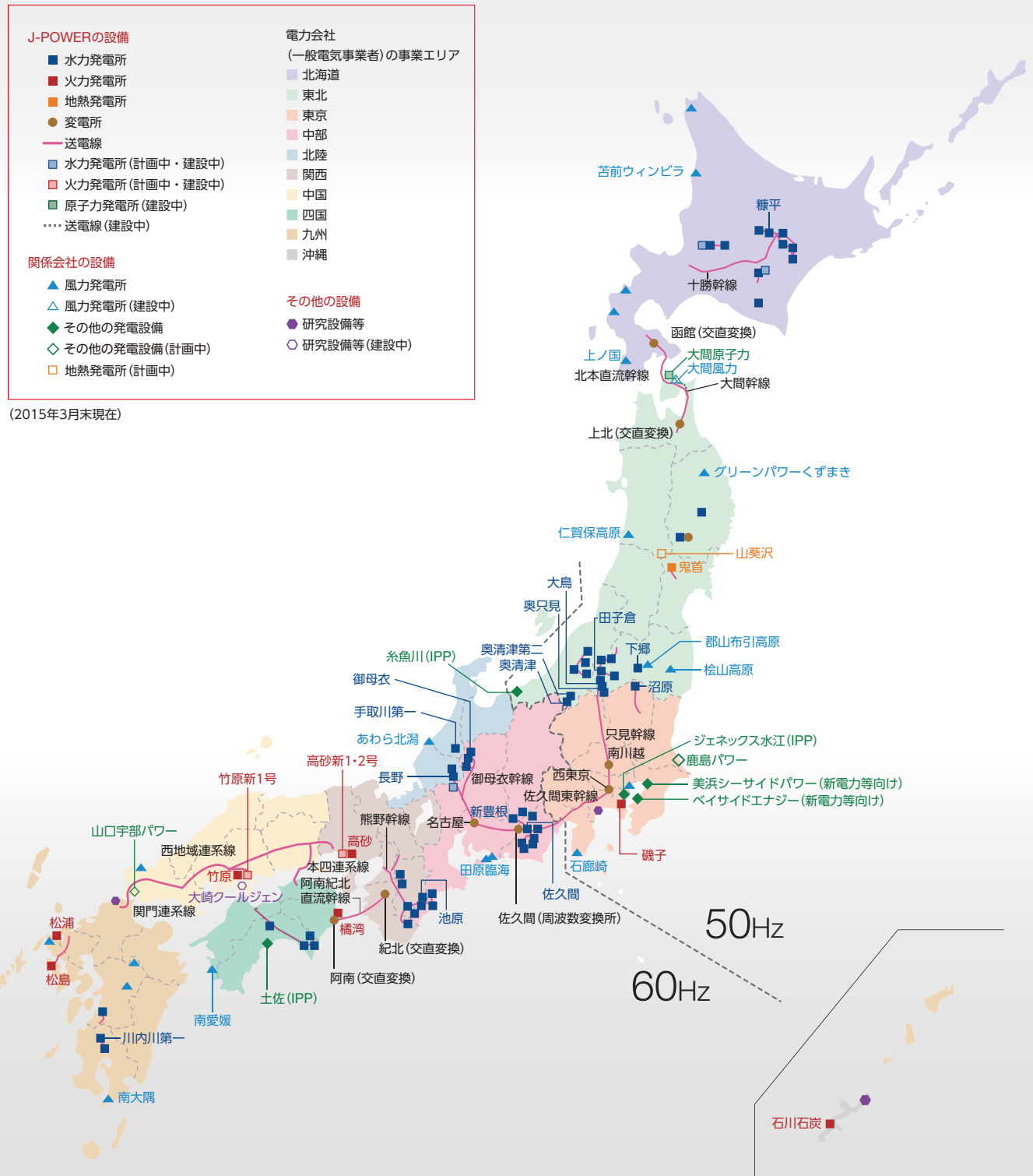


日本全国に展開するJ-POWER グループの事業

J-POWERグループは、日本全国に1,726万kW* の発電所と約2,400kmの送電線や変電設備を保有・運営し、日本全体の電力の安定供給を支えています。

*各プロジェクトの総出力に当社の持分比率を乗じて算出



J-POWERグループの国内電気事業設備(運転中)

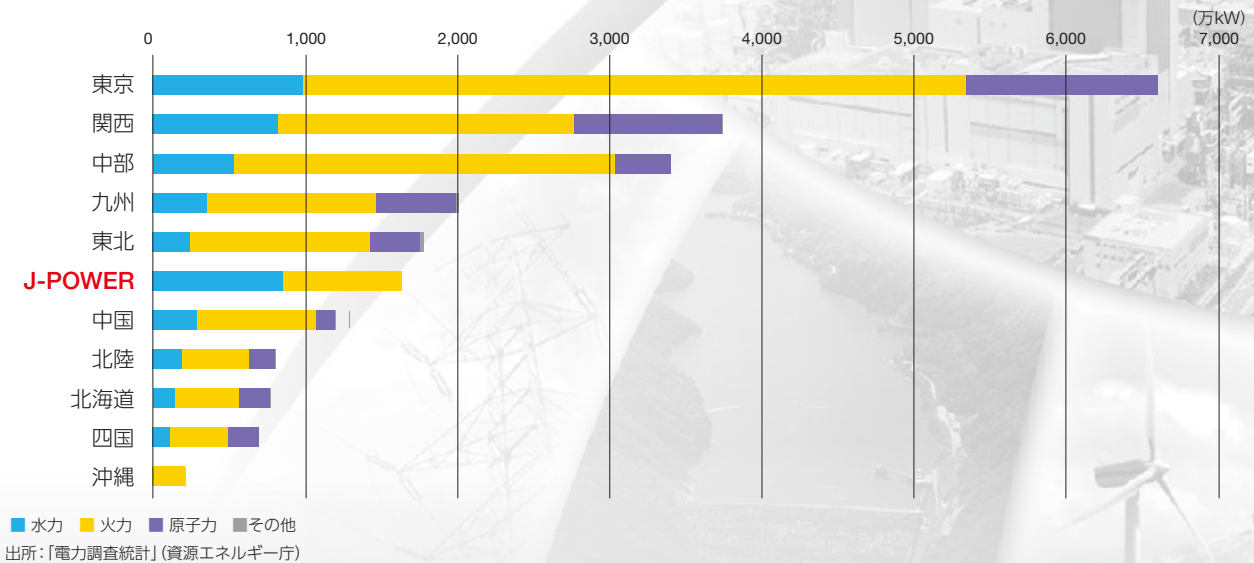
(2015年3月末現在)

J-POWERの設備

発電設備(出力)		
水力発電所	59カ所	857.0 万kW
火力発電所(地熱1カ所含む)	8カ所	781.4 万kW
計	67カ所	1,638.4 万kW
送電設備(巨長)		
交流送電線		2,410.9 km
直流送電線		267.2 km
変電設備(出力)		
周波数変換所(出力)	4カ所	430.1 万kVA
交直変換設備(出力)	1カ所	30.0 万kW
交直変換設備(出力)	4カ所	200.0 万kW
関係会社の設備*		
発電設備(出力)		
風力発電所	20カ所	40.2 万kW
IPP・新電力等向け火力	5カ所	73.4 万kW
計	25カ所	113.7 万kW

*連結子会社または関連会社の設備(出資持分割合は考慮していません)。

電力会社別発電設備出力・構成(2015年3月)



日本の電源別発電電力量の推移

かつては水力発電が主流でしたが、やがて豊富で安価な石油を使った火力発電へと移行。オイルショック以降、石炭や天然ガス、原子力等の開発が進み、電源の多様化が図られています。2011年の福島原子力発電所事故以降は、原子力発電所の停止が長期間継続しており、石炭や天然ガスによる火力発電が電力供給の軸を担っています。

